

新基地建設反対名護共同センターニュース

この悔しさを総選挙で取り返そう！



市議選結果受け日本共産党が決意表明

那覇市議選で当選した日本共産党の5人の市議と赤嶺政賢衆院議員などが12日、県庁前で市議選の結果報告とお礼の挨拶を行いました。古堅茂治市議団長は「総選挙では、赤嶺衆院議員を必ず勝利させよう」と訴えました。赤嶺氏は「コロナから命や営業を守るために全力で頑張り抜く。沖縄戦犠牲者の遺骨を含む土砂を使う辺野古新基地建設は県民を愚弄（ぐろう）する」と批判し、「新基地建設中止の公約を総選挙勝利で必ず実現させよう」と訴えました。（「しんぶん赤旗」提供）

サンセットライブは中止です！

当ニュース345号でお知らせした、7月17日に予定した「軍事政権許すな！ミヤンマー支援！サンセットライブ」（同実行委員会主催）は、会場の名護市21世紀の森屋外ステージが、緊急事態宣言の延長に伴って閉鎖されるため、中止することとなりました。

塩川港からの赤土搬出続く

本部町塩川港では辺野古新基地への赤土搬出が、ベルトコンベアーが設置されたことで加速されています。本部町島ぐるみ会議などは連日の猛暑の中、「少しでも工事を遅らせたい」と赤土を積んだダンプカーの前を、パネルを掲げてゆっくりと横断したり、搬出ダンプカーの台数をチェックするなど粘り強く活動を続けています。（写真は8日午後3時頃）



11日投開票が行われた那覇市議選の結果、城間市政与党の「オール沖縄」勢力は、全体として1議席後退しました。与党第1党の日本共産党が現職7人のうち5人の当選にとどまり、にぬふあーぶし（中道保守）と社民党が現職各2人から1人以後退。一方、立憲民主党が1人から3人に前進しました。この結果、定数40議席中、与党14人、中立7人、野党系19人となり、厳しい結果となりました。

総選挙勝利で新基地建設中止の実現を！

しかし、沖縄県でのこれまでの国政選挙の最大の争点は「辺野古新基地建設の是非」で争われてきました。一昨年の県民投票で72%の県民が示した「辺野古新基地建設反対」の民意に変化はありません。秋までに必ず行われる総選挙で沖縄県の小選挙区で1区の赤嶺政賢氏はじめ全4区の「オール沖縄」候補を勝利させ、新基地建設を必ず断念させましょう。

那覇市議選で「オール沖縄」勢力が後退
 それでも新基地建設ノーの民意は変わらない



平和市民連が県庁前でスタンディング

沖縄平和市民連絡会は12日朝、県庁前で横断幕を掲げてスタンディングを行いました。スタッフの女性は「月曜から金曜まで連日朝7時20分から1時間余り続け、6週目に入りました。通勤中の県職員から『頑張って！』と声がかかるなど反応があります。知事が防衛局の変更申請を『不承認』することを求めることも私たちの思いです」と話していました。

美謝川切替問題に関する名護市への事務監査請求を学習



熱心な質疑も行われた学習会（中央奥が北上田氏）

これについて北上田氏は渡具知市政の条例違反を指摘し、名護市の財産の管理を怠る事実などを住民運動で明らかにさせるため事務監査請求を提案し、その仕組みや請求運動が果たす意義を訴えました。

美謝川の切り替え工事を巡って稲嶺進前名護市長が在職時は、名護市も防衛局も名護市法定外公物管理条例に基づき事前に名護市長の許可（国の場合は協議）を受ける必要があるとしていました。しかし、渡具知武豊名護市長は今年5月6日、同条例の「適用はない」と防衛局に回答しました。

へり基地反対協議会は8日、辺野古新基地建設事業の行方を左右する美謝川付け替え問題に関する名護市への事務監査請求の学習会を名護市内で行いました。講師は土木技術者の北上田毅氏で市民32人が参加しました。

**名護市の対応の問題点を
 監査委員に判断を求める
 住民運動を提案**
 土木技術者・北上田毅氏